

関経連 NOW 「関西スポーツ振興ビジョン」の具体化に向けて

日本中が沸いた昨年のラグビーワールドカップを皮切りに、本年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、来年の世界マスターズゲームズ2021関西(以下、WMG2021関西)とビッグイベントが続く「ゴールデン・スポーツイヤーズ」。スポーツへの関心が特に高まるこの3年間を好機ととらえ、関経連では、スポーツ振興による地域活性化策の検討を開始。2018年7月には「関西スポーツ振興ビジョン」の策定、同年12月には産学官および有識者が一堂に会する「関西スポーツ振興推進協議会」の立ち上げを行った。今号では、スポーツ振興に資する当会のさまざまな切り口からの取り組みを紹介する。



①「WMG2021関西」決起大会(2019年11月) ②大学スポーツコンソーシアムKANSAIとの懇談会(19年9月) ③関西スポーツ振興推進協議会第2回総会(19年12月) ④WMG2021関西2年前記念イベント(19年5月)

「関西スポーツ振興ビジョン」策定まで

スポーツがもたらすさまざまな経済・社会効果に大きな期待が寄せられ、近年、各方面から注目されている「スポーツ」。

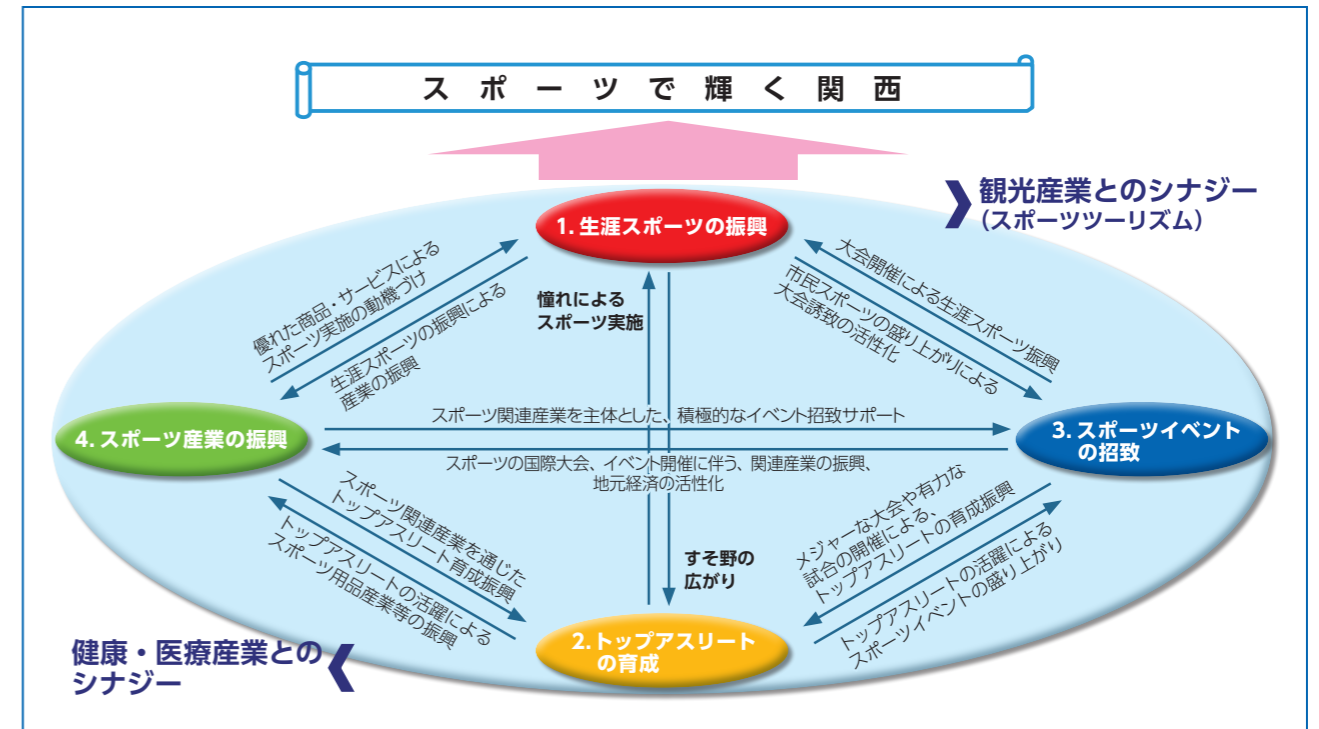
世界的なメーカーから中小企業まで多様なスポーツ用品関連企業の集積がある上に、スポーツとの親和性が高い健康・医療・観光産業が発展しており相乗効果も期待できる関西には、スポーツ振興により地域が活性化するポテンシャルがあると考えた当会では、「ゴールデン・スポーツイヤーズ」の到来も見据え2017年度に「スポーツ振興委員会」を新設。以降本格的に検討

を開始し、2018年7月には関西におけるスポーツ振興の方向性と具体的な取り組み、今後検討すべき事項などを取りまとめた「関西スポーツ振興ビジョン(以下、振興ビジョン)」を公表した。

○振興ビジョンの4本の柱

振興ビジョンでは、2025年ごろの実現をめざす姿として「スポーツで輝く関西」を打ち出し、その達成に向け取り組むべき4本の柱(図1)と、それぞれの柱の具体的な取り組み案を提示した(表1)。4本の柱は相互に関連しており、その推進において最も重要なことは、オール関西で一体的に取り組むことである。

図1 関西がめざす姿とそれを達成するための4本の柱



○関西スポーツ振興推進協議会

そこで振興ビジョンでは、関西の経済団体・自治体・スポーツ関係団体・大学などの関係者が一堂に会し、関西におけるスポーツ振興の取り組みに関して議論・検討・推進を行う場の設置についても提案。関西広域連合の賛同も得て、2018年12月に「関西スポーツ振興推進協議会」(座長：松本正義 関経連会長、事務局：当

会)を発足させ、オール関西で大きな方針を共有した上で連携しながらスポーツ振興に取り組む体制を整えた。

振興ビジョンに基づく 2019年度の主な取り組み

振興ビジョンで示した取り組みの具体化に際しては、当会のスポーツ振興委員会での検討に加え、知見を有する有識者で構成するエキスパートグループによる意見交換、関西の大学や企業、企業研究所等へのヒアリングや視察などを実施した。2019年度の主な取り組みを次に紹介する。

○スポーツの実施に関する企業・従業員調査

実態を把握しなければ適切な振興策を検討することはできないため、手始めとして2019年6月から7月にかけて、大商・京商・神商および関西経済同友会の協力も得て、当会を含む各団体の会員企業およびその従業員を対象にアンケート調査を実施した。企業には「スポーツに関する取り組み状況」、従業員には「スポーツ実施の現状」について質問し、企業224社、従業員7,179名から回答を得た。

スポーツ(運動)実施率

従業員調査によると、週1日以上スポーツ実施率は50.5%(週3日以上13.9%)と半数を超えた(図2)。

表1 4本の柱の主な課題・取り組み

1. 生涯スポーツの振興

- ・企業のスポーツ振興に関する実態調査
- ・企業の取り組みを促す表彰制度の創設
- ・スポーツをだれもが気軽に楽しむための施設等の環境整備
- ・企業所属アスリート派遣の仕組みづくり
- ・生涯スポーツ振興イベントの実施

2. トップアスリートの育成

- ・トップアスリート育成の仕組みづくり
- ・関西・西日本におけるトップアスリート育成拠点の設置

3. スポーツイベントの招致

- ・関西におけるスポーツイベント招致体制の構築
- ・関西招致をめざすスポーツイベントの検討

4. スポーツ産業の振興

- ・関西におけるスポーツ産業振興に関する基礎調査
- ・経済団体間の連携および産学官の連携

等

また、職場でスポーツを習慣化するような取り組みがあれば、より実施頻度が上がるとの回答は67.2%に上った。さらに、どのような機会があればスポーツを実施するかとの問いに対しては、「場所や施設が身近であれば/使いやすければ」「仕事や家事が多忙でなければ/休暇が取りやすければ」「仲間や家族との機会があれば」などが上位に並んだ(表2)。

図2 スポーツ(運動)実施率

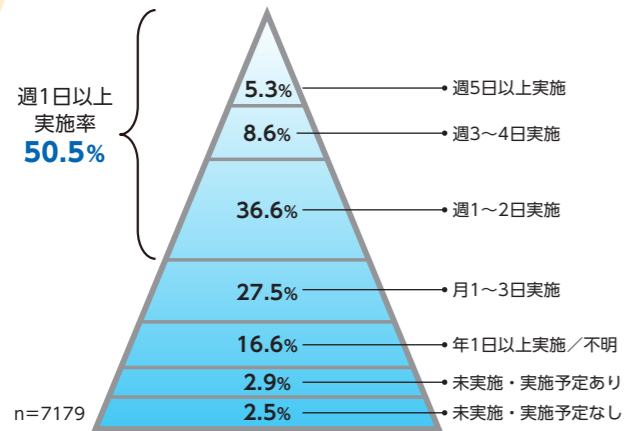


表2 どのような機会があればスポーツ(運動)を実施するようになるか (%)

| 機会 | 実施率 (%) |
|-------------------------------|---------|
| 1 スポーツ(運動)をする場所や施設が身近であれば | 46.9 |
| 2 仕事や家事が忙しくなくなれば | 46.4 |
| 3 スポーツ(運動)をする場所や施設が使いやすければ | 35.6 |
| 4 スポーツ(運動)と一緒にする仲間ができれば | 32.4 |
| 5 休暇を取得しやすくなれば | 27.5 |
| 6 スポーツ(運動)をすることへの金銭的なサポートがあれば | 19.5 |
| 7 子どもと一緒に楽しめるスポーツ(運動)があれば | 19.3 |

スポーツ庁は第2期「スポーツ基本計画」(2017年度からの5年計画)の中で成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%とする目標を掲げている。今回のアンケートでは、スポーツをしたい時に手軽に場所や仲間を見つけられると実施率が向上すると考える人が多いという結果が出ており、例えばマッチング機能をもったポータルサイトの充実などをはかることが有効ではないかと考えられる。

一方、従業員のスポーツ実施に関し、奨励する取り組みを実施している企業は95.1%で、その内容として

は「有給休暇の取得奨励」「活動費の補助」「ラジオ体操など社内での定期的な軽い運動の実施」などをあげる企業が多かった。

企業活動としてのスポーツへの取り組み

企業活動としてスポーツに取り組んでいると回答した企業は53.6%で、「アマチュア・地域スポーツイベント・大会の主催等」「スポーツ施設内での広告露出」「プロスポーツイベント・大会の主催等」「プロチームのスポンサー」等が活動内容の上位となっている。また、こうした取り組みにより期待する効果としては、「地域・社会の発展や貢献」「企業名・ブランド名の露出」「従業員の帰属意識の向上」等をあげる企業が多かった。

アスリートの支援を行っている企業は30.8%という結果となった。今後取り組みたいこととしては、「アスリートの支援や雇用・契約(パラスポーツを含む)」のほか「中学生等、若年のアスリート候補の支援」に対しても高い関心が示された。こうした次代を担うトップアスリートの育成支援やアスリートのセカンドキャリア支援への企業の「関心」を「実行」に移してもらえよう方策を検討していく必要がある。

今回得られた結果は基礎データとして、生涯スポーツの振興策やトップアスリートの育成方策の検討など、今後の取り組みに活用していく。

関西スポーツ応援企業表彰

生涯スポーツの振興に向けた取り組みの一つとして、関西広域連合と当会は「関西スポーツ応援企業表彰」制度を創設した(共催:関西スポーツ振興推進協議会、特別協力:WMG2021 関西組織委員会)。

従業員のスポーツ活動の促進やスポーツ分野での社会貢献活動等により、スポーツ振興や地域経済の活性化に貢献している企業等を表彰するもので、表彰制度や表彰企業が広く周知されることを通じ、企業におけるスポーツ活動の推進やスポーツへの参加に対する社会的機運の醸成をはかり、「生涯スポーツ先進地域関西」の実現の一助とするねらいもある。

第1回の表彰については、2019年8月1日~10月10日の期間で公募を実施。自薦、他薦を含め、多数の応募があり、選考委員会での厳正な審査の結果、個人競技種目を中心にアスリートが競技に専念できる環境を支援し、オリンピック選手を輩出したことなどから大賞に選ばれたミキハウスをはじめとする5社が各賞を受賞した。2020年1月31日には表彰式を行い、井戸敏三

関西広域連合長、松本会長らから表彰状を授与した。表彰は来年度以降も継続して実施していく。

第1回「関西スポーツ応援企業表彰」受賞企業

- 大賞: 株式会社ミキハウス
- スポーツ振興賞: 関西エアポート株式会社
- 地域振興賞: 株式会社平和堂
- 健康経営賞: 株式会社堀場製作所
- 特別賞: 株式会社カスタネット

経済界と大学との対話

産と学の対話と連携を強化する取り組みにも着手し、まずスポーツ振興委員会と関西の23大学が加盟する関西広域のスポーツ振興組織「大学スポーツコンソーシアムKANSAI」との第1回懇談会を昨年9月に開催した。

懇談会では、今後、関西の産学官が連携して取り組んでいく事業の候補として、「スポーツ振興に向けた関西ワンボイスでの発信強化」「トップアスリートおよび生涯スポーツ人材の育成支援」「学生スポーツを核に社会人や地域住民も参加できるオール関西スポーツフェスティバルの開催」など5項目を取り上げ、実行主体や時間軸を明確にしつつ、具体化に向けた検討を進めていくことで合意した。

ゴールデン・スポーツイヤーズ後を見据えて——今後の活動

関西スポーツ振興推進協議会は2019年12月、第2回総会を開催。1年間の活動について報告するとともに、

2020年度の取り組み案を提示し、意見交換を行った。

会合では、WMG2021関西を成功させること、さらにはその終了後もレガシーとなるようなスポーツ振興の取り組みを関西の産学官が連携して推進していくこと、政府や中央スポーツ関係団体と連携し、関西のみならず、日本全体の競技力向上や健康寿命の増進等に寄与していくことを確認した。

あわせて2020年度については、以下の課題・取り組みについて関係機関で連携し、テスト事業の実施や課題の検証など具体的な取り組みを進めていくことについて賛同を得た。

生涯スポーツの振興

- 各地のスポーツイベントに企業・大学所属のアスリートを派遣(自身の経験・パフォーマンスの披露)
- 大学スポーツを核に、社会人や一般市民が参加できる生涯スポーツ振興イベントの実施 等

トップアスリートの育成

- 関西の大学や企業、自治体等が有するスポーツ医学関連の施設や知見を活用したアスリートの競技力向上に対する支援
- アスリートや指導者の競技会等への参加や合宿に対する経済的支援方策の検討 等

その他

- 国際的なスポーツイベント招致に関する事例を調査し、関西の取り組みに反映 等

当会は、引き続き関係団体との連携のもと、オール関西で「スポーツで輝く関西」の実現に取り組んでいく。

(地域連携部 橘知孝・中村誠・古武寛士)

2020年2月1日より ワールドマスターズゲームズ2021関西 一般エントリー開始!

いよいよ2月1日からWMG2021関西の一般エントリーが始まります。WMGはおおむね30歳以上ならだれでも参加できる世界最大級の生涯スポーツの祭典です。日本はもとよりアジア初開催となる今大会。ぜひ皆さま奮ってご参加ください。

開催期間: 2021年5月14日~30日の17日間
開催地: 福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市
実施競技: 35競技59種目
参加申込期間: 2020年2月1日~2021年2月28日(予定)

※エントリーは大会ホームページから <https://wmg2021.jp/>

